

【第1号議案】

2020年度 事業報告

2020年度事業ならびに会務運営は、2019年度第5回理事会において承認（2020年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行を予定していたが、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大を受け多くのイベントの開催中止・延期を余儀なくされた。

第76回総会学術大会は従来の現地開催を見送り、予定していた全行程の企画・プログラムを見直して初めてのweb方式・オンデマンド方式による開催を決行したが、参加登録者数は過去最高の5,273名を記録し成功裡に終わることができた。また、第48回秋季学術大会は開催中止の判断をした。国際化でも、第76回総会学術大会はInternational Sessionを130演題web方式で開催、交流のある中華医学会影像技術学会（CSIT）へは代表理事によるビデオ講演開催、web開催に切り替えた大韓放射線科学会（KSRS）へは5名のオンライン参加、タイ医学物理学学会（TMPS）および中華民国医事放射学会（TWSRT）の大会も開催方法をwebに変更して対応した。外務省や国際協力機構などの後援を得て進めている東南アジア教育支援事業においては、計画の現地開催ワークショップを断念し、基礎教育セミナーを録画して謹呈するなど、オンライン教育を含めた教育支援にシフトした。

11月には新型コロナウイルス感染症対策に万全を期した上で、web動画配信を併設した市民公開講座を京都で開催して研究成果を一般市民に還元した。また、学会事業評価委員会による2019年度の事業評価結果を委員会、部会、支部の2020年度事業にフィードバックした。

2020年度末の正会員数は16,687名であり、2019年度末の正会員数と比べて減少（493名）し、2019年度に続き減少となった。学生会員は1,550名となり2019年度末と比べて大幅に増加（1,273名）した。

前代未曾有のコロナ禍にもかかわらず、会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会一丸となって事業を執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2020年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

(1) 総会学術大会の開催

第76回総会学術大会は2019年5月14日（金）～6月15日（日）の1か月間、奥田保男大会長のもとで開催した。一般研究発表演題は498題、参加登録者数は5,278名であった。

第77回総会学術大会は2020年4月15日（木）～18日（日）の4日間、西出裕子大会長のもとパシフィック横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

(2) 秋季学術大会の開催

第48回秋季学術大会を2020年10月15日（木）～17日（土）の3日間、飯田紀世一大会長のもと東京ファッションタウン（TFT）ビル（東京都江東区）で開催準備していたが中止とした。

第49回秋季学術大会を2021年10月15日（金）～17日（日）の3日間、川田秀道大会長のもと熊本城ホール（熊本市）で開催すべく準備を進めた。

(3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの部会が総会学術大会にwebジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門部会、地方支部共催で、画像部会は医用画像プログラミングセミナーと、DRセミナーを、核医学部会は核医学画像セミナーを、放射線治療部会放射線治療セミナーを、撮影部会は実地で学ぶMRI安全管理セミナーを、放射線防護部会は2回の医療放射線リスクコミュニケーションセミナーを、医療情報部会はPACSベーシックセミナーを行った。新型コロナウイルス感染症の影響により先年度比1/3の開催実績になった。

(4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の学術大会ならびにフォーラム、セミナーなどを企画していたが学会の新型コロナウイルス感染対策方針に従い開催中止を余儀なくされた。（中止した企画；4月北海道支部第76回春季大会、11月北海道支部第76回秋季大会、10月東北支部第58回学術大会、11月第67回関東支部研究発表大会、5月第74回東京支部春季学術大会、10月東京支部市民公開

講座, 12月第55回中部支部学術大会, 12月関東支部研究発表大会, 11月第64回近畿支部学術大会, 11月第61回中国・四国支部学術大会) その中でも, 唯一, 九州支部の11月に第69回九州支部学術大会(長崎市)は開催し386名の参加を得た。

(5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした2020年度市民公開講座は第48回秋季学術大会併設で企画したが中止とした。一方、2020年度市民公開シンポジウムを『「視えない“乳がん”を診けだす」早期発見・早期治療を支える放射線技術』のテーマで京都市において開催し58名が参加した。また、2020年度JSRT-JART合同市民公開講座を8月熊本会場で企画したが中止の運びとなった。

(6) フォーラムの開催

広報, 啓発を目的として第76回総会学術大会時に放射線防護委員会は放射線防護フォーラムを, 標準規格委員会は標準化フォーラムを, 関係法令検討委員会は放射線管理フォーラムを, 医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。一部の開催延期を含めweb方式で開催した。

2. 刊行広報事業 ; 公2

(1) 学会誌の発行

2020年1月~12月で掲載論文数が73編(昨年は同期間で72編)となった。学会誌第76巻1号~第76巻12号の12冊(論文特集号1冊含む)を毎月20日に発行した。

(2) 英語論文誌の発行

公益社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で, 第13巻1号を2020年3月20日付, 2号を2020年6月20日付, 3号を2020年9月20日付, 4号を2020年12月20日付で発行した。掲載論文数の合計は51編(昨年は53編)となった。

(3) 出版活動

放射線医療技術学叢書(38)「アーチファクト・アトラス(CT, MRI, SPECT, PET)」を刊行した。過去出版叢書類は全てPDFによる電子書籍化を行った。また, 放射線技術学シリーズ「放射線計測学(改訂3版)」, 「X線撮影技術学(改訂3版)」および放射線スキルUPシリーズの「標準 医用画像の視覚評価法」を発刊した。

(4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を発行した。北海道支部は北海道放射線技術雑誌をVol. 88, Vol. 89を, 関東支部は関東支部雑誌23号を, 東京支部は東京支部雑誌Vol. 135を, 中部支部は中部支部雑誌Vol. 22を, 近畿支部は近畿支部雑誌Vol. 26 No. 1, No. 2, No. 3を, 九州支部は九州支部雑誌Vol. 19を発行した。

(5) 部会雑誌の発行

各部会において部会雑誌を発行した。

(6) 広報活動

会告, お知らせ, イベント, 他団体からの案内をホームページ(和文)等に掲載し, 広報活動を展開した。一方, 医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業 ; 公3

学術研究班16班を編成して学術活動を行った。また, 本会の更なる多様性を鑑み, ダイバーシティ推進調査班を編成し女性や若手研究者の学術研究に対する意識調査の準備をした。その他, 学術研究で多用されつつあるAI技術を放射線技術学発展に供する目的でAI技術活用班も編成した。コロナ禍の影響を受け, 各編成班は, 当初の活動計画の縮小を余儀なくされ, 本年度期限の学術研究班のうち9班の活動期間延長を決定した。

AI技術を用いた放射線治療計画(前立腺癌, 食道癌, 術後子宮癌)の具体的な手法を4本の論文にまとめた。また, 獣医療における放射線治療について画像解析技術を応用した生物学的評価の研究成果2本を論文投稿した。

第76回総会学術大会（JRC2020Web）では、専門部会講座の「入門編」7講座、「専門編」5講座ならびに教育講座を開催した。また、ROCセミナー編、医療情報の流れ編、倫理規定編ならびに動画で見る一般撮影マニュアル（上肢、下肢）編のe-learningのコンテンツを作成した。

4. 研究奨励事業；公4

規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。

関東支部は、功労賞1名、技術奨励賞1名、新人賞6名の表彰を行った。東京支部は、功労賞1名、学術奨励賞1名、新人研究奨励賞9名、Research Award1名の表彰を行った。中部支部は功労賞2名、奨励賞7名の表彰を行った。中国・四国支部は、功労賞2名、奨励賞3名の表彰を行った。九州支部は、支部研究奨励賞3名、支部論文化奨励賞1名、優秀投稿賞1名、学生優秀賞5名の表彰を行った。

5. 連携交流事業；公5

(1) 国内

- ① 関連学協会への委員の派遣ならびに共催・協賛・後援含めて関連学協会への協力を行った。
 - (a) JIRA, 日本IHE協会, DICOM委員会と協力し標準・規格委員会活動として, JIS原案改正3件ならびにJJ1017指針改定を行った。
 - (b) 医療情報の標準化を目的に日本IHE協会に3名, HELICS協議会に4名, 医療情報基準化協議会, DICOM委員会に6名, ISOへ1名の派遣を行った。
- ② JRC理事会に役員を6名派遣し, 学術大会開催企画に積極的に参画した。
- ③ 一般社団法人日本放射線看護学会に役員4名を連携会員登録し, 広島で合同シンポジウム(web)を開催した。また, 両会合同で環境省の科研費を申請し共同研究を行う準備に着手した。
- ④ 公益社団法人日本診療放射線技師会と2回の懇談会とライブ動画配信によるトップ会談(10月)を行った。また, 国際関連事業について意見交換(9月)を行った。

(2) 海外

世界的なコロナ禍の影響により, 海外への会員派遣は中止した。

一方で本会および交流のある学会はwebによる学術大会を開催しオンラインでの学術交流を行った。中華医学会影像技術学会(CSIT)第28回総会学術大会(9月)で役員1名がビデオ講演, 大韓放射線科学会(KSRS)春季学術大会(8月)に5名が, 第20回アジア・オセアニア医学物理学術大会(AOCMP2020)(12月)に3名が, また国際磁気共鳴医学会のSMRT第29回年次大会(8月)に5名がオンライン参加し学術交流をおこなった。